

誰もが安心して働ける企業へ！
理想の実現を目指して。

プロ野球には一軍、二軍があります。仕事ができる、できない、さらにその他の条件も考慮されて選手たちは一軍と二軍に分けられるわけですが、仕事ができる有能な選手でも、故障を生じたりすると一軍から二軍へいったん移されます。また、二軍の選手でも良い仕事ができそうであると判断されれば、一軍へ上ることができ

ます。
私の工場においても障がい者、健常者を問わず、仕事ができる、できないは当たり前前に存在します。

世間一般では「仕事ができない」「生産率が悪い」ということが解雇の理由になるようですが、このようなことは弱者排斥の何ものでもありません。切り捨てたり、あきらめるのは、簡単なことです。でも、私はあきらめるのが嫌いです。ひとは育てなければいけません。ひとを育てるというプロセスの中で、じつは自分自身も成長させてもらっているのですから。

携わっている仕事はどうしてもできない、身体の具合が悪い、継続して働けない、仕事はできるが周囲と協調・協同作業ができないなど、働くことに何らかの支障が生じたひとに、私は解雇でも「もっと頑張れ」でもなく、「頑張らなくていいですよ」と退避できるスペースを設けてあげたいと思うのです。先に挙げた野球のシステムのように、一人ひとりの現状に応じて一軍から二軍、二軍からまた一軍という具合に、どんな状態の時でも社内に居場所を確保してあげたいのです。

昨今、ニートという言葉をよく耳にします。

働きたくても働く場所がないなど、事情や問題を抱え、家に閉じこもったままの子どもを抱える家族の気持ち、世間や社会に入っていけない子どもを抱える家族の気持ち、障がいを背負った子どもを持つ親の気持ちは計り知れません。何があるうとも、我が子、我が家族は愛しく、大切にかけがえのない存在です。

だからこそ、親であれば、家族であれば、順序からして自分たちが先立った後も子どもがしっかりと幸福に生きていけるよう、自立の道を願うのです。

いかなる事情を抱えていようとも、引きこもり、ニートのままでは自立の道を歩むことはできません。

私の工場では、みんなが一生懸命作業に励んでいます。同じように懸命に取り組んでいても、誰しも得手不得手があるように、障がい者にはどうしてもできない仕事があります。そのようなときは健常者が障がい者を手伝います。すると、ひととひとの連携システムが生まれ、仕事がスムーズに流れます。

人間は一人では生きられず、社会は互いにひとを支え合って成り立っています。会社も同じです。仕事も、互いに助け合うことが大切なのです。

できないひとを、できるひとが助け、どちらかに何かしらの支障が生じたら、避難する場所があり、そこには手助けや支援してくれるひとがまた存在する、会社にこのようなシステムが整っていれば、諸事情を抱えて働けずにいるひとたちも一歩を踏み出しやすく、誰もが安心して働けるのではないのでしょうか。

ひとのために何かをしてあげられる喜び、助けてもらうありがたさ、相互扶助の素晴らしさ、生活の糧を得ること、明日への希望、生きる喜び、束縛ではない自由

の中の秩序…。働くことで、引きこもってはいられない、こうした多くのものを得て欲しいと思います。

当社へ工場見学に来てくださった方から、「感動した！」という言葉をよくいただきます。工場では多くの障がい者が、会社という組織の中で個々の考えを持ちながら、秩序を保ち、きちんと働いています。表情は明るいです。この働く美しい姿が感動を与えるのだと思います。彼らの働く姿勢を見れば、働けないでいる健常者のひとたちも「彼らに負けないように自分も働かなくては！生きていかなくては！」と思うに違いありません。また、少しでもそう思ってもらえたら、私はとてもうれしく思います。

様々な事情を抱えたひとの受け皿に成り得る企業であることが幸いです。相互扶助が根付いた会社組織、仕事に携わる一軍、ケアのための充電場所であり、働く準備をするための二軍、そして一軍、二軍を支えるスタッフ。このシステムをきちんと構築し、後世に残すことできたら、どんなに素晴らしいでしょう。必ず実現させて、もっと多くの障がい者を受け入れ、いろんなひとたちが支援し合いながら働ける場所としての企業を目指します。

「働けずにいる多くのひとの未来を担いたい」

これが私のライフワーク、私が理想とする企業の姿です。